

特別4床室を導入いたしました

～個室のようなプライベート空間で
快適な療養を～



お隣のベッドとの間に木製パーティションを設けることで、4床室でも個室感覚でお過ごしいただける『特別4床室』を導入いたしました。

今回、4階東と5階西病棟に4床ずつご用意いたしました。

室料 1日あたり3,300円(税込)

特別4床室は健康保険の適用にはなりません。

全額自己負担となりますので、ご了承ください。



ベッドの位置によって、広さや明るさが変わりますのでご了承ください。

療養上の安全のため、ご希望に添えない場合があります。

ピーなっつうしん

Vol.17
2022.3



知っておきたい医療の知識 「秦野赤十字病院 脳神経外科のお話」

病院からのお知らせ

「特別4床室を導入いたしました」

秦野市の特産品「ピーナッツ」の花言葉は、「仲よし・楽しみ」。生活に役立つ情報や当院の魅力などを提供し、地域の皆さんと病院とのコミュニケーションツールになる広報誌を目指します。

QRコードを読み取ると、当院ホームページへアクセスでき、最新のお知らせをご確認いただけます。



赤十字の歴史や日本赤十字社の所蔵資料を紹介する新ウェブサイト「赤十字WEBミュージアム」をオープンいたしました。赤十字創設以来の「救いたい」という「こころの灯」を受け継ぐインターネット上の“博物館”です。赤十字情報プラザ(本社1階)に来館せずとも所蔵品を見ることが可能になりましたので、ぜひご覧ください。

知っておきたい医療の知識



「秦野赤十字病院 脳神経外科」のお話

令和3年4月より廣田が赴任し、森信医師とともに常勤医2名体制の診療が開始され1年が経過としています。まだまだ人数としては不十分ですが横浜市立大学より派遣されている非常勤医師とともに高度急性期医療を実践すべく努力してきました。この一年の報告とともに将来の展望を報告させて頂きたいと思っております。

—断らない脳神経外科

手術やカテーテル治療は医師2名を要するため、その治療中は急患対応が困難です。当院では内科医師を中心に、脳外科医師が対応困難の時には、他科の医師がまず診察、検査の実施をするとともに脳外科医師へ連絡を頂く体制を取っています。必要時は脳外科医師が手術室やカテーテル室にて画像確認の上、適切な指示を出せるよう対応しています。



91%UP!



36%UP!



今月号の



第一脳神経外科部長

ひろた のぶお
廣田 暢夫

〈資格・所属学会〉
日本脳神経学会専門医・指導医
日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医
脳卒中の外科学会技術指導医
難病指定医
第9回JADECOC地域志向型指導医 修了



—脳卒中治療

脳卒中患者の受け入れ、入院管理を行っています。この中でカテーテル治療や脳外科手術に対応すべく高度医療機器の導入が行われ多くの治療に役立っています。脳外科は脳神経を扱うという点で高度な医療機器が必須でありこの一年で一通りの医療機器がそろいました。

急性期血栓回収術、脳動脈瘤塞栓術など血管内治療、手術では脳動脈瘤クリッピング術、バイパス術などの開頭手術など両治療の良いところを選び治療しています。



今年度整備したナビゲーションシステム。肉眼では見え辛い脳の中の血管や神経を映し出します。難度の高い脳神経外科手術の要となる機器の一つです。



血管内治療の様子。時間と繊細さの両方を求められる現場です。今回は広報写真のアングルを決めている間に1件完了してしまいました。速い！

—脳腫瘍

転移性脳腫瘍、聴神経腫瘍、大型脳腫瘍など高難度の手術も実施しました。看護師教育、放射線科技師、臨床工学士教育を実施の上、より安全に手術を行っています。

—三叉神経痛

顔面の痛みの疾患です。薬物療法とともに手術治療も有効です。当科ではまず三叉神経痛であるか診察とともにMRIで血管が神経を圧迫しているか確認し、診断を確定しています。その上で患者さんのご希望により薬物治療か手術か選択しています。薬物治療の場合、適切な薬物の選択、投与量の決定は経過を見て実施し、その後かかりつけ医へ逆紹介して投与の継続を行ってまいります。手術のご希望の場合は脳外科での手術を行っています。

—顔面けいれん

三叉神経痛と同様MRIにて確認し、手術適応がある場合、手術希望者に対し実施しています。

—将来の展望

脳外科医師不足の中、当院脳神経外科は横浜市立大学からの医師派遣により成り立っています。現状は廣田のもと1名の医師派遣がありますが、秦野市16万人弱の脳卒中を中心とした脳神経疾患を受け入れるには更なる脳外科医師の増員を要するところであり、今後も医師派遣に向けて努力してゆきます。

また現在の救急ワークステーションにて活動している救急科医師として待望の常勤医の赴任が決定しており、より適切な脳卒中など急性期医療の実施が可能となります。循環器内科とともに脳神経外科ではカテーテル治療が増えており秦野赤十字病院ではカテーテル室を増設することが決定しています。

いつでも急患の受け入れ、血管内治療の実施ができるよう準備を進めてまいります。これからもよろしくお願い致します。



右は3月末をもって異動となる森信哲医師。
中央は廣田暢夫第一脳神経外科部長。
左は4月より当院に赴任する阿部浩征医師。